

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

92

技術流出を懸念

ではないかという認識が共有されつつある。

あるハーバード大学の教授が、中国「千人計画」に参加している事実を政府当局に隠蔽したことで、虚偽陳述の罪で逮捕されたのは記憶に新しい。

適用が拡大する可能性が懸念されている。健全・公正性確保

「尊厳「らしさ」といった意味合いのほか、マシメントシステムを機能させる上での手段に着目すれば「自らを一体の統合されたものとして健全に律する」とも捉えられる。また、わが国では研究公正と訳されることは、これまでも研究の自由や開放性を基盤とする科学の進歩のため、研究の捏造・改ざん・盗用を研究不正として処罰することをはじめてとして多岐にわた

オープンイノベーションやオープンサイエンスといった研究のオープン化や、国際共同研究の増加や頭脳循環の強化などの国際化が進展しており、国際的にも国内的にも開かれていることが活カある研究システムのために不可欠なものとなっている。一方で、オープンな研究システムが不当に利用される事例の多発から、技術流出などを通じた国家安全保障への悪影響が及ぶとともに、研究システムの健全性が毀損されるの

これらは研究データや知的財産など研究成果をターゲットとする「外国の影響」として米国を中心に盛んに論じられている。特に中国の影響が中心だ。米国化学界の大家で「千人計画」自体は海外人材採用プログラムであるが、米国政府が検討されているが、公表している契約内容には、プログラムの参加には、プロシテックの境界が曖昧になることとして、先端的・萌芽的な研究にまで規制の

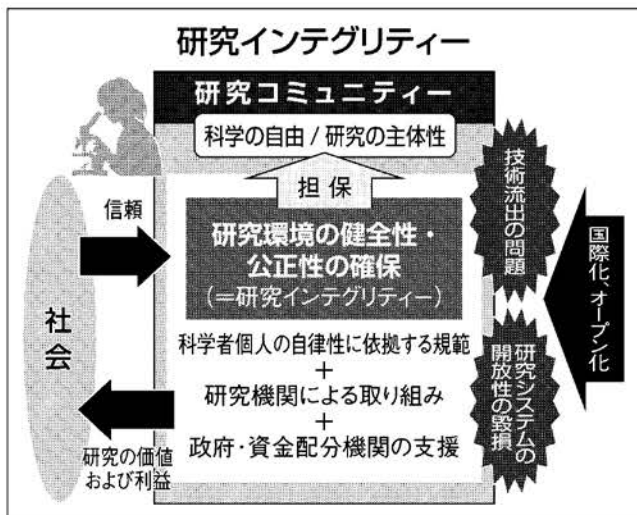
「研究インテグリティ」の強化で対応できるとしている。Nレポートが一つの参照点となっている。問題に対し規制ではなく報告書であるJASO

研究インテグリティ 開放性・国家安保両立

科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(科学技術イノベーション政策ユニット) 宮地 俊一



東京工業大学大学院生命理工学研究科修士、文部科学省入省。科学技術イノベーション政策における基本政策、調査分析・研究、EBPMのほか、人材政策、医療研究などを担当。20年より現職。



わが国の「統合イノベーション」戦略2020においても「研究インテグリティ」が挙げられている。研究コミュニティがこの問題を研究システムにも関わる自身の問題として捉えていくべきものと考えられる。今後活発な議論が望まれる。(金曜日掲載)